



マハトマ・ガンディー
生誕 150 周年記念

インド映画、多彩なステージプログラム、ガンディー写真展、インドグッズ販売、インドおはじきキャロム体験他 内容盛りだくさん

インド祭 in 十日町

特別講演

「マハトマ・ガンディーについて」

インド政府ICCR派遣グループ

インド仮面舞踊セライクラ・チョウ

インド人演歌歌手チャダ演歌ショー

十日町雪まつりステージでも熱演を披露したチャダが帰ってくる



新任駐日インド大使
サンジェイ・クマール・ヴァルマ閣下



2011年総勢21名によるインドツアー以来！
十日町懐メロ愛好会、十日町ユニオンポップスと再び共演！

Bollywoodダンスショー



<SAHELIA(サヘリーア)>
<Mikiko / Ethno Exotica Vaudeville>
地元十日町出身シドゥー由佳里
(SAHELIA主宰) 出演

インド古典舞踊
バラタナティヤム



富安カナメ/現役小学生
インド人もビックリ！
11歳でプロデビュー

○キャロムコーナー○



インド発祥のおはじきゲーム
「キャロム」を紹介
《13:00~16:30》

インド映画特別上映



○インド映画特別上映○

「バジュランギおじさんと、小さな迷子」
《10:30~13:10/10:00開場》
会場：多目的スペース
入場無料/先着順

全世界大ヒット！「ダンガル」
「パークパリ」に次ぐインド映画歴代興行成績No.3！

○ガンディー写真展○

《13:00~16:30》

会場：雁木ギャラリー

○インドグッズ販売○

《13:00~16:30》

会場：ホールロビー

2019年5月6日(月) 14時00分 (開場13時00分)

越後妻有文化ホール(段十ろう)

〒948-0083新潟県十日町市本町一丁目上508-2 TEL 025-757-5011

チケット1,000円(前売り)/1,500円(当日) (高校生以下無料/要チケット)【全席自由】

チケット販売：越後妻有文化ホール「段十ろう」/NPO市民活動ネットワークひとサポ事務局(分じろう)

千手中央コミュニティセンター/中里公民館/松代・松之山温泉観光案内所

主催：NPO日印交流を盛り上げる会 共催：インド政府ICCR、インド大使館 後援：新潟日报社、十日町新聞社、十日町タイムス社、(株)妻有新聞社、FMとおかまち
協力：十日町懐メロ愛好会 十日町ユニオンポップス 助成：(公財)新潟県国際交流協会、(公財)内田エネルギー科学振興財団(申請中)
問合せ：NPO日印交流を盛り上げる会(大池・ミティラー美術館内 090-6943-1406、025-752-2396)

※プログラムは予告なく変更する場合があります。

インド政府ICCR派遣舞踊団

今回来日するセライケラ・チョウ舞踊団「ヴィジョン・オリッサ (Vision Odisha)」は5月12日奈良の大安寺で開催する菩提僊那継承事業に派遣されるグループです。菩提僊那継承事業は、2012年より毎年東大寺やインド大使館等で開催してきました。菩提僊那は奈良時代にインドから日本にはじめてきたインド人僧で東大寺の大仏開眼導師をつとめた方です。今年は昨年と同じ菩提僊那が住した大安寺（当時は国際的仏教総合大学の様相を呈していた）にて開催いたします。来日グループは、5月3日宮城県女川町公演、4日「ナマステ・インディア in 女川町」に参加し、その後各地を公演予定です。

セライケラ・チョウは、東インド・ジャールカンド州セライケラ地方の伝統的な仮面舞踊です。また、インドを代表する仮面舞踊の一つで、その幽玄とも言える仕草には「能」に共通したものがあり、日本でも早くから注目されてきました。

長年君臨する王家によって、セライケラ・チョウの踊りは庇護され、王家からも踊り手として訓練を受け活躍する人も出るなど、大変静かで洗練された形を保ちつつ今日まで伝承されてきました。

仮面舞踊チョウはバリ・カンダ（バリは守護、カンダは剣の意）と呼ばれるマーシャル・アート（武術芸術）から生まれたと言われ、様式化されたステップや身体の動きには武術の基本が見て取れます。また手の構えは攻撃あるいは防衛に直ちに移れる位置にあり、防衛や剣を使って行われるトレーニングから生まれたもの。

踊りのスタイルは繊細で力強いもので、リズムックな脚の動きは複雑なステップ、ジャンプ、素早い回転、滑るような歩きや異なった様々な歩きなど、その構成は振り付けと共によく考え出されたもので、大変印象深いものがあります。

ほだいせんな

東大寺の大仏開眼導師をつとめた菩提僊那と継承事業

菩提僊那は遣唐使の要請で仏教の教えを日本に伝えるため、一度は暴風雨に遭い引き返しましたが、天平8年(736年)5月18日に二度目の航海を経て太宰府に到着しました。菩提僊那は当時、東大寺と並び大寺院であった大安寺においてサンスクリット語をはじめ、仏教の教えを日本僧に伝え、天平勝宝3年(751年)には僧正という非常に高い位に就きました。

聖武天皇の詔により天平15年(745年)から現在地での建立が始まった東大寺盧舎那仏の開眼法会は、天平勝宝4年(752年)4月9日に執り行われました。菩提僊那は聖武上皇の勅書を受け、上皇の代わりに開眼導師をつとめました。開眼の筆には縹(はなだ)色の縷(る)(全長198m)が結ばれ、会場に集う人々がこの縷を手を持ち、開眼の瞬間に結縁しました。1万人を数える僧侶も参加したと伝えられます。

2012年、インド政府は日印国交樹立60周年の記念催事として、菩提僊那を1276年の時を経て継承しました。その後も毎年、インド大使館や東大寺、大安寺にて開催して参りました。



ミティラー美術館
菩提僊那像
(グラスファイバー・3D)

2015年にインド大使館の協力のもとインドで制作された。

菩提僊那継承事業に派遣されるインド舞踊団や音楽団とともにインド大使館をはじめ全国で公開されている。

毎年9月末に東京・代々木公園で開催されるインド国外では最大規模のインドフェスティバル「ナマステ・インディア」でも公開されました。



2012年8月
東大寺大仏殿前にて
ドゥルバッド声楽奉納



2012年5月
東大寺中門前にて
オリッシー舞踊奉納



2014年5月
東大寺中門前にてカタカリ舞踊奉納



2016年8月 東大寺中門前にて
北インド古典音楽&フュージョン奉納公演



配給:SPACEBOX